

病棟での薬剤師の仕事について



薬剤部
薬剤師 土倉 史香

薬剤師は、本館1階にある薬剤部で患者さんのお薬を準備する仕事以外に、病棟で入院患者さんのお薬の管理を行っています。今回は病棟での薬剤師の仕事について紹介します。

持参薬調査

当院では、患者さんが入院される際、普段服用しているお薬を持参していただいています。薬剤師はその持参薬を調べて医師に情報提供しています。持参薬を継続するかどうかは医師の判断になります。近年、ジェネリック医薬品や新しい薬の発売が多く、患者さんが服用されているお薬が多様化しているため、この持参薬の確認は入院中も安全にお薬を継続使用していただくために重要な仕事の一つとなっています。

服薬指導

患者さんのお薬について、ベッドサイドで服薬指導を行います。お薬の飲み方や使い方、効能、副作用や飲み合わせなどを説明し、お薬への理解を深め積極的に治療に参加してもらえるよう努めています。

副作用管理

患者さんが服用するお薬について、副作用が出ていないか確認します。特に抗がん剤治療を受ける患者さんには、事前にスケジュールや副作用の説明を行い、十分注意して観察していきます。副作用を最小限にとどめ、患者さんが安心して治療を受けることができるように、医師に処方の変更をしてお薬の投与設計を支援しています。

退院時服薬指導

患者さんが退院後に服用するお薬について、服薬指導を行います。その際、当院以外に病院を複数受診されている患者さんもおられ、病院間やかかりつけ薬局でお薬の情報を共有するため、お薬手帳の普及に努めています。

チーム医療

当院では、感染症対策チーム、栄養サポートチーム、褥瘡対策委員会などの活動が積極的に行われており、そのメンバーに薬剤師も参加しています。また、手術部、救命救急センター、臨床研究支援センターにも薬剤師が配置されており、お薬の管理を行っています。

学生実習

平成18年度より薬学部は6年制となり、5年次に5カ月間の実務実習(病院、薬局各2.5カ月間)が必修カリキュラムとなりました。当院でも、毎年1クール53日間の実務実習を3クール受け入れており、病棟での学生実習も行っています。社会や医療のニーズに適切に対応できる薬剤師の育成に向けて、教育に力を入れています。



服薬指導



学生実習

薬剤師はお薬の専門家として、医師、看護師、他の医療スタッフとともに、患者さんのより安全で効果的な治療に参画しています。入院中にお薬についてわからないこと、聞きたいことがありましたら、病棟薬剤師にいつでもお気軽にご相談ください。



新館7階からの眺望



福岡大学病院の基本理念 あたたかい医療

- 高度先進医療の指導的病院
- 健康のための情報発信基地
- 地域に開かれた中核的医療センター
- 社会に必要とされる優れた医療人の育成
- 社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

患者さんの権利と義務

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。福岡大学病院では、信頼され安心して受診していただける病院を実現するため、患者さんの基本的な権利を明確にしてこれを職員一同が認識すると共に、患者さんにも義務を守っていただくことをお願いします。

《患者さんの権利》

1. 受療権
患者さんには常に人間としての尊厳と差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
2. 選択権
患者さんには病院を自由に選択し、変更する権利があります。
3. 自己決定権
患者さんは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて十分説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否する権利があります。
4. 知る権利
患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
5. プライバシー保護権
患者さんは医療上得られた個人の情報やプライバシーが守られる権利があります。

《患者さんの義務》

1. 情報提供義務
患者さんは良質な医療の提供を受けるために、ご自分の健康に関する情報をできる限り正確に医師や看護師に提供してください。
2. 状況確認義務
患者さんは納得のいく医療の提供を受けるために、医療に関する説明を受け、理解できない場合は理解できるまで質問して確認してください。
3. 診療協力義務
全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則、職員の指示を守ってください。
4. 医療費支払い義務
適切な医療を維持していただくために、医療費を滞りなくお支払いいただくことが必要です。

口や顎の病気について～福岡大学病院歯科口腔外科で治療している病気～



歯科口腔外科
歯科医師 瀬戸 美夏

顎(あご)の骨の病気

顎骨の病気には大きく顎変形症、骨折、嚢胞などがあります。

顎変形症とは、受け口や顎が左右のどちらかに偏位していることで極端に咬み合わせが悪くなる病気です。歯科矯正医と協力して正常な咬み合わせと顎の変形を修正する手術を行っています。

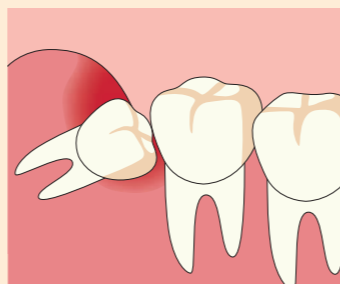
また、つまずいて転んだり、事故で顔面を強打したりすると、顎の骨が折れて、咬み合わせがずれることがあります。骨折の前の咬み合わせを復元しつつ顎の骨が元の状態に戻るよう手術を行います。嚢胞は、顎骨内に歯牙やその他の要因によって袋のような病巣ができたものをいいます。歯科治療時のレントゲン撮影によって偶然発見されたり、感染による痛みや違和感を精査することで発見されたりします。主に、外科的手術で取り除きます。

菌性感染症(炎症)

口に関連した炎症である菌性感染症には、プラークや歯石の中の細菌が歯肉に感染して化膿し、腫れる病気(歯周炎、歯肉膿瘍)や、大きな虫歯や歯槽ノーローを放置することによって歯の根の先に出来た病巣から感染が広がったり、顎骨に埋まっている歯が誘因になったりして、口の中の常在菌が歯肉と顎骨の間に広がっておこる骨膜炎、上下顎骨周囲炎などがあります。通常は歯肉を切開して溜まった膿を出しますが、ひどい場合には、顔の皮膚などを切開して膿を出す場合もあります。また、虫歯や歯周病を放置すると顎骨内部にある「骨髓」に菌が感染し、化膿すると、強い痛みを伴う顎骨骨髓炎が起こる場合もあります。抗生剤を内服したり、消毒を続けたりして治療します。炎症が起こる場所によっては口が開きにくいために食事がとれないこともあり、栄養管理目的に入院していただくこともあります。

埋伏智歯(親知らず)

ヒトの顎骨は進化によって小さくなる傾向にあります。歯の大きさはあまり変わっていません。そのため、最後に生える予定の親知らず(智歯)の生えるスペースがなくなり、顎骨内に埋まったままの状態になります。埋伏歯は、その前にある歯を虫歯にしたり、菌性感染症の原因になったりします。16歳から22歳くらいでの智歯抜歯を推奨しています。また、不安の強い方には精神鎮静法を併用して不安や痛みのない抜歯術を行っています。

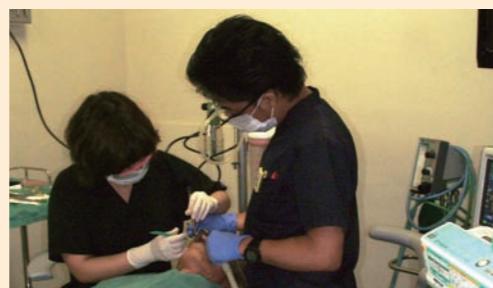


歯牙インプラント

インプラントは、歯が無くなったところに歯の根に似た金属製の根を植え込んで土台をつくり、その上に固定式または着脱式の歯をとりつける治療法です。自分の歯のように咬めるようになるのが魅力の1つです。植え込んだインプラントが完全に骨組織と結合するためには、それを顎骨の中に3ヵ月から6ヵ月のあいだ埋め込んでおくことが必要で、外科的処置は、一回法、二回法に分けられます。治療は健康保険の適応外となり、自由診療になります。



この他、当科では口の中にできる腫瘍、ヘルペスのような口腔粘膜の病気、唾液を作っている唾液腺に関連した病気などの診断・治療、がん患者さんの周術期口腔管理も行っています。さらに、心臓病、糖尿病、高血圧症などをお持ちの方にはモニター管理と精神鎮静法の併用によって、より安全な治療を提供しています。



歯科衛生士の主な業務について



歯科口腔外科
歯科衛生士 楠 亜樹

歯科衛生士の主な業務は、歯科予防処置、歯科診療補助および歯科保健指導等を行う歯科医療職です。福岡大学病院では主に、外来小手術の準備や診療の補助、治療後のメンテナンス、周術期管理の患者さんの口腔機能管理を行っています。



周術期口腔機能管理

平成24年4月から診療報酬に周術期口腔機能管理が新設されました。これは医科と歯科連携で主にかん治療を受ける患者さんの治療前・中・後の口腔衛生管理を行うものです。平成24年4月から平成25年7月までに、525人が紹介受診されました。具体的には、全身麻酔によるがん手術後の縫合創部感染予防や口腔内細菌の誤嚥による肺炎予防が中心です。放射線治療や抗がん剤療法時の口腔粘膜炎や口腔感染症の予防など、がん治療の質の向上や患者さんに優しい医療を目指すものです。対象疾患は、頭頸部領域・呼吸器領域・消化器領域、また臓器移植手術や心臓血管外科手術を必要とする疾患です。

1) 術前に口腔管理が必要な理由

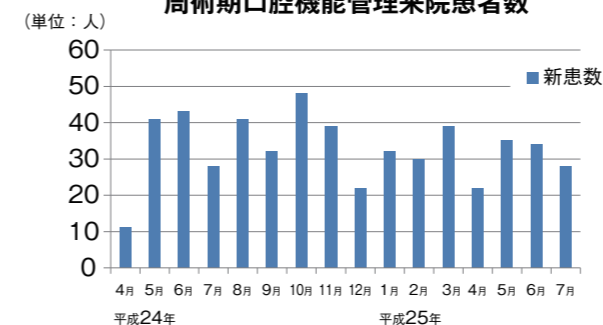
- 全身麻酔で挿管チューブを用いる場合、口の中の細菌が気管や肺に押し込まれる可能性があるため。
- 重度の齶蝕(虫歯)や歯周炎を起こす細菌が、身体の中で他の病気を発症させる可能性があるため。
- 歯周病等でグラグラ動いている歯は、全身麻酔時に脱臼や脱落等の危険性があるため。

2) 口腔機能管理の内容



- 歯科衛生士による歯垢・歯石除去
- 全身的感染症や術後の合併症の原因となりうる炎症性歯科疾患の治療
- 退院後は地域開業歯科医院での口腔衛生管理の継続依頼

周術期口腔機能管理来院患者数



3) セルフケアの方法

【歯みがき】

最も重要なのは歯みがきです。歯に残った食べかすや歯垢を取り除くことにより、口の中の細菌を減らします。さらに、唾液腺や味覚を刺激して唾液分泌や味覚の改善にもつながります。歯ブラシはやわらかめを選びましょう。また、多くの歯みがき剤に含まれる発砲成分は、口腔粘膜に刺激を与え炎症を悪化させると言われているので、発砲成分が含まれていない歯みがき剤をお勧めします。

【うがい】

水または洗口液でうがいを頻繁に行うことで口の細菌を減らすことができます。また、口臭の予防にもなります。市販の洗口液で、アルコールの含まれる物は口腔粘膜への刺激が強いため使用をさけましょう。

【保湿】

口腔乾燥は齶蝕や歯周病の発症、口腔内細菌の増殖に伴い口腔粘膜炎になりやすいです。こまめに、うがいや水分補給、市販の保湿剤を使用して適度に口の中を湿らせておきましょう。

【義歯のお手入れ】

義歯は、汚れがつきやすいため毎食後義歯を外して、歯ブラシまたは専用ブラシで清掃しましょう。食事をしなくても、最低1日1回は清掃しましょう。